

KANSAI CITY PHILHARMONIC ORCHESTRA
THE 41ST SUBSCRIPTION CONCERT



関西シティフィルハーモニー交響楽団
第41回定期演奏会

2006年3月19日[日] 14:30

ザ・シンフォニーホール

主催 関西シティフィルハーモニー交響楽団

協賛 株式会社 ASK PLANNING CENTER



2005年9月4日、ザ・シンフォニーホール 第40回記念定期演奏会

関西シティフィルハーモニー交響楽団

KANSAI CITY PHILHARMONIC ORCHESTRA

(社)日本アマチュアオーケストラ連盟加盟団体 / 大阪文化団体連合会会員団体

1974年各大学オーケストラの卒業生を主たるメンバーとして、関西OB交響楽団の名称で結成。1994年創団20周年を機に現在の団名に改称。“アマチュア精神に基づく、グレードの高い社会人オーケストラ”をモットーに、年間2回の定期演奏会をはじめファミリーコンサート等を、意欲的に開催しています。近年は指導体制の充実に力点を置き、有能なプロの先生方を指揮者や指導スタッフに招請して研鑽を積んで参りました。中でも、1998年より4年間、ズラタン・スルジッチ氏(現ドゥプロヴニク交響楽団首席指揮者)を常任指揮者に招聘し、その指導を仰いだことにより「音楽的に大きな飛躍を遂げた」との評価を内外から得ております。また組織としても「若い力を積極的に運営面に活かし、“常に成長するオーケストラ”を目指して努力を重ねております。昨年8月に大阪市で開催された「全国アマチュアオーケストラフェスティバル大阪大会」では、開催主管団体として、当団の組織力を遺憾なく発揮し、フェスティバル成功の原動力として、連盟をはじめ全国のアマチュアオーケストラ各位から、高い評価と大きな賛辞を頂くことができました。毎週土曜日の夜、指揮者やトレーナーの先生方の指導のもと、真剣な練習を行っており、現在団員数は、約100名を有します。

ごあいさつ



阿保 幸雄 Sachio Abo

関西シティフィルハーモニー交響楽団 団長

リムスキー = コルサコフ スペイン奇想曲

- . アルボラダ (Alborada)
- . 変奏曲 (Variazioni)
- . アルボラダ (Alborada)
- . ジプシーの情景と歌 (Scena e Canto gitano)
- . アストリアのファンダンゴ (Fandango asturiano)

チャイコフスキー 幻想序曲「ロメオとジュリエット」

休憩

メンデルスゾーン 交響曲第3番「スコットランド」

第1楽章 Andante con moto - Allegro un poco agitato - attacca:

第2楽章 Vivace non troppo

第3楽章 Adagio - attacca:

第4楽章 Allegro vivacissimo - Allegro maestoso assai

楽譜協力:トヨタミュージックライブラリー

本日は、私共の第41回定期演奏会によろそお越し下さいました。

「こんなええ曲やったんか! 知らなかった。」

これがメンデルスゾーンの3番の初練習を終えた時に、多くの団員が持った率直な感想です。こんなにも上品でロマンチックで透明感に溢れた名曲ですが、4番(イタリア)の陰に隠れてあまり知られていないのも事実です。実際、選曲会議でこの曲が選定されたとき、かなり多くの団員が“聞いたことは有けれどもあまりよく覚えていない”という感想をもらしました。しかし、練習が始まってからは、皆がこのかなり難しい曲にほれ込んで、より一層の練習に励んできました。今日は団員一同精魂を込めて、この美しい曲を出来るだけ美しく演奏したいと願っています。コンサートの後半で演奏するこの曲が有る意味では地味なだけに、前

半では親しみのあるメロディーを、当団自慢の多彩な音色で大いに派手に皆様と一緒に楽しみたいと思っています。

このたび、ギオルギ・バプアゼ氏に、ズラタン・スルジッチ氏以来空席であった私共のオーケストラの常任指揮者に就任していただきました。氏には昨年3月の第39回定期演奏会を指揮していただきましたが、その卓越した音楽性と親しみやすいお人柄に全員が心酔し、その就任を切望したところ、快くお引き受けくださいました。ヴァイオリンの名手でもある氏によって、特に弦部門の響きが格段によくなってきたように思われます。今後も氏によってこの交響楽団がより高いレベルに引き上げられますことを、心より期待しています。

末筆ながら、今後とも当団に対し、温かいご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

リムスキー = コルサコフ | スペイン奇想曲

リムスキー = コルサコフ(1844 ~ 1908)はロシアの官吏の家に生まれ、音楽好きな両親の元で育ちました。父親の薦めで海軍士官学校に進みましたが、次第に音楽に強い関心を持つようになり、ピアノを独学で始めたのを皮切りに、「ロシア5人組」の一人であるバラキレフに作曲の手解きを受けるようになります。海軍に進んでからも、作曲のかたわら、音楽法全般について猛勉強を重ね、やがてペテルブルク音楽院の教授に就任するに至りました。彼の手がけたロシア民謡の研究や編曲、標題交響詩や歌曲などは、今でも高く評価されています。

リムスキー = コルサコフの残した曲のうち、現在最も愛好されている作品が異国情緒漂う「スペイン奇想曲」および「シエラザード」という2つの管弦楽曲です。特に「スペイン奇想曲」は、リムスキー = コルサコフが海軍士官候補生となり、3年間の遠洋航海でイギリス、アメリカ、ブラジル、地中海などを廻った際にスペインに立ち寄った時の印象を元に作られているといわれています。

この曲は超絶技巧のヴァイオリンソロがあることが有名で、当初ヴァイオリン幻想曲として計画をしていましたが、自伝「わが音楽の生涯」の中で、「この奇想曲は幻想的な管弦楽の色彩をもって輝くべきものであった。そして明らかに私は下手なことはしなかった」と書いています。確かに、曲中には色とりどりの美しい旋律やハーモニーがふんだんに散りばめられており、「管弦楽法の魔術師」といわれたリムスキー = コルサコフの自信作といえます。

全曲は次の5つの部分からなります。まず朝のセレナードを意味する「アルボラダ」は、クラリネットの活気溢れる主題で華々しく始まります。それに続く「変奏曲」では、対照的に穏やかな曲想になります。その後、再び冒頭の「アルボラダ」になり、ここでは独奏ヴァイオリンが活躍します。「ジプシーの情景と歌」では、最初にホルンとトランペットが広々とした空間に鳴り響くように奏されますが、この主題が独奏ヴァイオリンに受け継がれ、次第に盛り上がりしていきます。最後の「アストリアのファンダンゴ(*)」では打楽器も総動員され、狂喜乱舞のうちに曲は終わります。

作曲家リムスキー = コルサコフによって、この曲は初演されましたが、リハーサル時から楽団員が練習中に何度も拍手喝采をし、褒め称えたほどの曲です。コルサコフは曲を団員に献呈することを決め、初演の総譜には67名の団員の名前が書き込まれたといわれています。

このスペイン情緒あふれ、表情豊かで、幻想的な響きをもつ「スペイン奇想曲」を本日はどうか心行くまでお楽しみ下さい。

(*) ファンダンゴとは、ムーア人あるいはアストゥリア地方に起源をもつ古いダンス音楽でカスターネットとタンバリンで律動をきざむ音楽のことです。

山中聡子(クラリネット)

チャイコフスキー | 幻想序曲「ロメオとジュリエット」

トルストイ、ユーゴー、ダンテ……。チャイコフスキーの部屋の戸棚には、数々の作家の本が多数収められていたらしい。その中にはシェイクスピアも含まれており、なかなかの読書家であったと思いきやチャイコフスキーが「ロメオとジュリエット」に魅力を感じて、この幻想序曲を作曲したなんていう話も想像に難くない。

ところが、チャイコフスキーが「ロメオとジュリエット」を作曲したのは、作曲家である友人バラキレフの強い勧めからであった。バラキレフは「ロメオとジュリエット」を題材として勧めただけではなく、曲をいかに構成すべきか、またそれぞれの主題をどの調性にするか、といったような具体的なことまでチャイコフスキーに提案したようである。チャイコフスキーはこのバラキレフの熱意に押されるように1869年29歳の時に作曲にとりかかり、バラキレフのアドバイスに忠実に従って手直しし、翌年3月に初演を果たした。その後改訂を重ね、1880年40歳の時に最終稿(第3稿)が完成する。

曲はまずクラリネットとファゴットの重奏によって始まる。この

重々しいハーモニーは、ロメオとジュリエットを見守る慈悲深いロレンス神父を表している。肅々と曲は進んでいき、やがてアレグロで導入部に入る。荒々しい第1主題はモンタギュー家とキャピュレット家の対立を表現しており、木管楽器と弦楽器、あるいは高音楽器と低音楽器での掛け合いが続き、両家の争う様が巧みに描写されている。そして全管弦楽によるクライマックスの後、第2主題であるロメオとジュリエットの愛のテーマが現われる。

コーラル・アンブレとヴィオラによって甘く奏でられるこの第2主題は、変二長調という調性もあってかどこかしら不安げであり、2人の愛の行く末を暗示しているかのようでもある。バラキレフもこの主題について「実に魅惑的です。わたしはこれを何度も弾いており、この曲を讃えてあなたに強くキスをしたい気持ちで一杯です。ここには恋の陶酔と甘さがあります……」と絶賛している。

消えゆくように第2主題が終わると、一転して展開部に入る。ここでは第1主題が形を変えて現われる。さらに、ロレンス神父を表すあの序奏が金管楽器によって奏され、第1主題と絡み合

い、曲はますます激しさを増していく。その後、弦楽器によって奏でられる2人の愛のテーマが再び現れる。今度は華やかな二長調で書かれ、2人の愛は燃え上がり頂点に達する。しかしそこにまたもや第1主題が現われ、結ばれたかに見えた2人の愛は散り、2人は息絶える。

曲はコーダへと突入し、Moderato assai で葬送の音楽が奏

でられる。ティンパニのリズムを背景に散りばめられた第2主題の断片が悲しげに響く。やがて木管楽器とハーブが天に召された2人を包み込むかのような暖かい曲想を奏で、ティンパニの急激なクレッシェンドの後、Tutti による和音でエンディングを迎える。

稲谷亜季子(ヴァイオリン)

メンデルスゾーン | 交響曲第3番「スコットランド」

今CDをスタートさせた。ヴァイオリンとオーボエが哀愁のあるメロディを奏でる。もう10年以上も私は飽きことなくこの曲を聴く。メンデルスゾーンの交響曲第3番「スコットランド」(以下、「スコッチ」と呼ぶ)。出不精なくせに、なぜか私は2度もスコットランドにでかけている。そしてそのときに撮った私のへたくそなスナップ写真を見るより、この曲を聴くほうがよほどスコットランドの風景を鮮明にのみがえらせてくれるのだ。

2楽章がはじまった。クラリネットがはずむ。私は羊の群を思うのだけど、パブで人々が陽気に集まっているのだと言う人も。ところで、関西シティフィルでは選曲会議を組織して3回分の定期演奏会プログラムを組む。決まったらメンバー総替えでまた次の3回分をという具合。私が選曲議員だったのは2000年だったからもう6年も前になるのか。今これを書くまで長い道のりだった。メンデルスゾーンはスコットランドを訪ねた折にインスピレーションを受け、その後13年の歳月をかけて作曲したというから、それに比べればたいしたことないけれど。

3楽章の冒頭、私た女私、第一ヴァイオリン奏者です)は3番弦のハイポジションではじめる。どうかいい音がでますように。そうそう、私が選曲議員のときの話。3回の演奏会のうち一度は「弦楽器の基礎力をつけるため」古典をいれるということだった。私はその枠に「スコッチ」を推した。メンバーの半分は「その曲知らん」という反応。メンデルスゾーンというど、メンコン(ヴァイオリンコンツェルト)に「真夏の夜の夢」の「結婚行進曲」。交響曲は知っていても4番の「イタリア」。なんで「スコッチ」は有名じゃないのかな。日本人受けするメロディだと思っただけ。「新世界より」の2楽章なみに受け入れられてもいいと思っで、なんで弦の基礎力強化、といういつもいつもベートーヴェンとモーツァルトがあがってくるの? この年、ベートーヴェンに負ける。確かに勉強にはなったけど)

4楽章。この付点のリズムの連続、個人的に苦手。もし羊が走っているなら、私も何頭も崖からつきおとしちゃっている、パブで踊っている人ならころんで骨折させている。だいたいこの曲は全楽章、間をあげずに一気に演奏する。弦は休む間なし。4楽章までくるとへとへと。さて、私は選曲議員でなくなってからもずっとこの曲を推してきた。代々の選曲議員に「スコッチ」検討して

みて、とささやく。実はこの曲を好きなのは私だけではなくて、あちらこちらにいて、その後も候補には上がり続けていたのだ。さあ、いよいよこの人のことを書かなくては。前チーフパトリリーダーのこと。この人をウンと言わせなくてはうちでは何も始まらない。一度決議されたことだって「もう一回勉強しなせよ」と、ちゃぶ台ひっくり返して怒る昭和の親爺みたいな人。(だから以降、親爺と呼ぶ)この方に「スコッチは無理や。どれだけ弦楽器が難しいかわかってるのか。」と私は言われ続けた。前常任指揮者のズラタン・スルジッチ氏に訴えたら彼の言うとおりだよ。と言われた。(英語で。スルジッチ氏は日本語を解さなかった)それみたことか、という顔の親爺に「だって Our orchestra is getting better and better. って言うてたやん。だから私、いつかはできると思う。I think so. I hope so! I wish so!!」私は大阪弁でも英語でも語り続けた。

今回この曲が最後まで候補に残っていることは知っていた。「今までは違うことをしたい。」と今回の選曲議員の中心になっているホルン吹きが発言していることも知っていた。でも実際に決まったときは喜び以上に驚き。私は親爺に聞いた。「なんで今回はちゃぶ台ひっくり返さなかったの?」指揮者がゴギさんやから。これやるなら今しかない、思た。我々の現常任指揮者ゴギさんこと、ギオルギ・バプアゼ氏は関西フィルハーモニー管弦楽団(「関西シティフィル」ではない。)のコンサートマスターだ。(すばらしいヴァイオリン奏者。おまけに日本語も堪能。)そして親爺の期待どおりにヴァイオリンを初めとして、弦楽器はこの曲でゴギ氏の熱い指導を受けることになったのだ。初練習のあと親爺は「わしが反対してた理由がわかったやろ。」とにやっと笑って私に言った。ご機嫌だった。あとで「思ってたより健闘しよる。」と親爺が言っていたと耳にした。

この曲のコーダを聴くと幸せな気持ちになる。ホルン、いいなあ。2006年3月19日、シムフォニーホールでも幸せになれるかな。前チーフパトリリーダーは今では団長だ。今回のプログラムでも「団長挨拶」が顔写真とともに載るだろう。「スコッチ」の次は何いってやるうかしら。関西シティフィルは常にチャレンジします。どうぞこれからもよろしくお願ひいたします。

加藤裕紀子(ヴァイオリン)



1962年グルジア共和国トビリシ生まれ。
トビリシ国立音楽院にてシウカシュヴィリ教授に
ヴァイオリンを、オディセイ・ディモリアディー氏に指
揮を学ぶ。
モスクワにてボロディン弦楽四重奏団のベルリン
スキー氏に師事。
1986年より15年間バトゥーミ市交響楽団の指揮
を務める。
1990年よりグルジア音楽協会室内管弦楽団の
芸術監督および首席指揮者を務め、フランス、ド
イツへ演奏旅行。
その他、国内外におけるオーケストラのヴァイオリ
ン奏者としてイタリア諸都市で演奏する傍ら、グル
ジア弦楽四重奏団のメンバーとしても活躍。
1996年より大阪シンフォニカー交響楽団のコン
サートマスター、2001年10月より関西フィルハー
モニー管弦楽団のコンサートマスターに就任。
2002年4月より京都市立芸術大学ヴァイオリン
専攻非常勤講師も務める。
トビリシ弦楽四重奏団メンバー。
2005年より、関西シティフィルハーモニー交響楽
団常任指揮者就任。

GEORGE BABADZE

指揮 ギオルギ・バプアゼ

団員募集の
お知らせ

ヴィオラ
コントラバス
ファゴット
パーカッション

急募

練習日時 毎週土曜日 夜6:30～9:30
練習場所 北出音楽事務所(JR・京阪「京橋駅」から徒歩10分)
お問い合わせは事務局まで [0729-58-4585]
なお、当団のホームページでも最新の団員募集情報を公開しております。

関西シティフィルハーモニー交響楽団

VIOLIN

西田 美音子
稲谷 亜季子
岩井 哲也
上阪 美保子
岡 雅樹
岡崎 鈴代
小野寺 慶太
加藤 孝司
加藤 裕紀子
亀本 侑志
川井 裕史
河盛 晶子
神田 靖子
北村 栄祥
斎藤 良子
佐向 恵子
隅谷 恭子
高橋 浩二
谷所 幸子
豊島 直子
中川 雅登
中谷 日出夫
中谷 道代
名合 由妃
難波 千里
西川 友理子
西村 真貴
西村 悠美
橋本 敏彦
花村 美佳
平下 祐子
廣瀬 知華
藤田 恵子
森川 裕
山本 真弓
吉岡 弓子

VIOLA

秋山 久雄
井戸 義訓
入江 隆
太田 真紀子
岡 恵子
川端 成彬
田中 景子
戸井田 隼
福田 文治
松本 光世
宮崎 友彰
永田 佳子 (賛助)
稲葉 宏己 (客演)
森本 涼代 (客演)

VIOLINCELLO

安彦 郁
阿保 幸雄
岩田 倫和
上田 真紀子
奥野 平人
小野田 素大
坂元 正三
豊島 正誠
富樫 誠
橋本 美代
廣瀬 恵子
藤井 綾

DOUBLE BASS

安彦 義哉
稲葉 杏子
隅谷 正一
長岡 豊
萩尾 善正
安近 紀子
渡辺 昭一
大川 宏明 (客演)
岡田 亜矢子 (客演)

FLUTE

姜 愛順
芝野 均
多田 博史
丹波 博子

OBOE

岡田 啓
勝山 貴美子
酒井 洋
西山 健市
波留 ひとみ

CLARINET

打田 正樹
栗山 明子
芝野 範子
細野 巖
山中 聡子

BASSOON

一ノ瀬 圭子
山科 みどり
合原 君陽 (客演)
中野 愉類 (客演)

HORN

安彦 高志
織田 克洋
中谷 星子
西山 順子
廣橋 麻理子
山科 幸生
山部 義幸

TRUMPET

残熊 祐治
西川 倫史
廣橋 誠司
森 修二
山田 浩之

TROMBONE

柏岡 亨
金 昌信
松田 斉

TUBA

藤川 健
北畑 聡子 (賛助)

PERCUSSION

川人 玲子
田村 千春
上柿 泰平 (客演)
富岡 計次 (客演)
平瀬 光代 (客演)
守 葉子 (客演)

HARP

鈴木 貴子 (客演)

団長

阿保 幸雄

副団長

柏岡 亨

運営委員長

山科 幸生

チーフパトリージャー

廣橋 誠司

(兼インスペクター)

インスペクター

小野寺 慶太

総務

岡 雅樹

坂元 正三

富樫 誠

会計

上田 真紀子

田村 千春

人事

山本 真弓

広報

細野 巖

IT

岩田 倫和

ライブラリアン

井戸 義訓

渉外

森 修二

友の会

佐向 恵子

会計監査

長岡 豊

相談役

松田 斉

...コンサートミストレス
コンサートマスター

...パトリージャー

トレーナー 池田 重一
岩井 英樹
高谷 昌里
谷田 野本 撰

中谷 葉子
橋本 守弘
村口 眞也
松村 洋介

関西シティフィルハーモニー交響楽団 | 第42回定期演奏会

2006年 9 | 17 [日]

14:30開演
ザ・シンフォニーホール

指揮 ギオルギ・ババアゼ

チャイコフスキー：歌劇「エフゲニー・オネーギン」より ポロネーズ
ボロディン：歌劇「イーゴリ公」より ダンタン人の踊り 他
合唱 関西シティフィルハーモニー合唱団
ショスタコーヴィッチ：交響曲第10番

関西シティフィルハーモニー交響楽団 | 第5回ファミリーコンサート

2006年 11 | 19 [日]

15:00開演予定
池田市民文化会館「アゼリアホール」

指揮 高谷光信

曲目未定

関西シティフィルハーモニー交響楽団 | 第43回定期演奏会

2007年 3 | 18 [日]

14:30開演
ザ・シンフォニーホール

指揮 栗田博文

ブラームス：ヴァイオリンとチェロの為の二重協奏曲
ヴァイオリン ギオルギ・ババアゼ(予定)
チェロ ギャ・クオシヴィリ(予定)
ブラームス：交響曲第2番 他

関西シティフィルハーモニー交響楽団友の会
会員募集のお知らせ

当団では「友の会」の会員を募集致しております。会員になられますと 当団主催演奏会のご案内 特別優待価格でのご入場 友の会特別席のご用意 等の特典があります。入会金、会費無料!!

友の会会員 お申し込み方法

*はがきでの演奏会のご案内をご希望の方.....パンフレットに折込の申し込み用紙にてお申し込みください。お問い合わせは事務局までお気軽にどうぞ。事務局 0729-58-4585]

*メールでの演奏会のご案内をご希望の方.....只今、メールでの演奏会のご案内およびインターネット上でチケットのお申し込みができるよう準備中です。詳細は当団ホームページをご覧ください。折込の申し込み用紙ではお申し込みできませんので、ご注意ください。

・友の会のみなさまの個人情報、演奏会のご案内など、当団の諸活動に關係する用途以外には、一切利用致しません。

<http://orchestra.musicinfo.co.jp/~kcpo>

関西シティフィルハーモニー交響楽団ホームページのご案内

関西シティフィルハーモニー交響楽団のホームページは「クラシック音楽情報センター」(<http://www.musicinfo.com>)より、サーバーの無償使用の協力を得ています。